

川崎医療短期大学

広報誌 No.87

特集 学園祭を支える存在

- 臨床検査科 ワッペン授与式
- 上海師生訪問団／介護の日
- 平成26年度第3回公開講座報告
- ハラスメント防止講演会／学生生活委員会主催講演会
- 地域探訪くらしき&おかやま⑨
- 日本語に関する取り組み／福祉・介護人材確保緊急支援事業
- 川崎エコプロジェクト／上海からの聴講生紹介
- インフォメーション

学園祭



第40回 川崎学園祭特集

「学園祭を支える存在」



10月11日（土）、12日（日）に第40回 川崎学園祭が開催されました。本学ではトークショーや学科紹介など多くのイベントが企画され、たくさんの方に来場していただきました。

今回の特集では、学園祭の裏方として奮闘した学友会の活動を振り返り、苦労したことや活動を通して得られたことを聞きました。



実行委員長
臨床検査科 2年
伊井 なつき

台 風19号の接近も危ぶまれた中、今年も無事に学園祭を開催することができました。

振り返れば学園祭実行委員長として不安や心配ばかりで、最初から最後まで多くの方々にご迷惑をかけ通しました。しかし、実行委員、学友会、学園祭参加団体、地域の方々、教職員の皆さんなど、多くの方々からのご協力に支えられて何とかやり遂げることができました。

なお、天候の都合により模擬店を途中で中止せざるを得なかったことをこの場をお借りしてお詫び申し上げます。

私にとって、学園祭はとても大きな思い出となりました。学園祭を通して初めて知ったこと、学んだことも多く、この経験をこれから先、生かしていきたいと思います。

最後になりますが、ご協力いただいた多くの方々に感謝の気持ちを込めてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



副実行委員長
放射線技術科 2年
宮嶋 佑旗

笑 顔で楽しいこう！このありきたりなことを目標に、私は、今回の第40回川崎学園祭を迎えました。

副実行委員長の主な役目は学友会メンバーのまとめ役です。今年はメンバーの人数も多く大変でしたが、この目標を頭の隅に置いて準備を進めました。前日準備、1日目と進みいよいよ迎えた学園祭2日目、連日夜遅くまでの準備・片付けの疲れでメンバー全員から元気が消えかかり、私自身、笑顔も楽しむことも忘れていました。

そんなとき思い出した「笑顔で楽しいこう！」。メンバー全員で最後まで楽しくやり遂げようと、最後の最後で気持ちをRe-STARTすることができました。

頼りないまとめ役の私でしたが、メンバー全員の協力があったからこそやり遂げられたのだと思います。

最後になりましたが、支えてくださった多くの皆様、本当にありがとうございました。



広報

臨床検査科 2年
池上 愛子

パンフレット作成は川崎医科大学、川崎医療福祉大学、川崎医療短期大学、川崎リハビリテーション学院の4校合同で行いました。福祉大学を中心に連絡を取り合いながら、作成を進めていきました。本学では模擬店や企画の部の情報、山口学長からの挨拶文、学友会全体の集合写真などのデータを集めてパンフレット作成に携わりました。各部活動やサークルと連絡をとり、期限までに様々なことを決めていかなければならないのは大変でしたが、多くの人の協力があって、無事に完成させることができました。その分、出来上がったパンフレットを見た喜びは大きなものとなりました。



パンフレットの分配作業



プロコンサート

臨床検査科 2年
下垣内 花奈

プロコンサートと聞いて一番に思ったことは、そんなに重大な役ではないから気楽にやろう、という安易な考えでした。

去年は前夜祭で、比較的楽な担当でした。プロコンサートもそんな感じだろうと勝手に思い込んでいました。しかし、実際には思っていた以上に大変で、特にチケット販売が一番苦労しました。想像以上の人の多さに戸惑い、指示がうまくできませんでしたが、皆が私をサポートしてくれたお陰でチケットを完売することができました。これからも1人ではできないことも多々あるでしょう。そんなときも仲間と互いに支えあい乗り越えていきたいと思います。



チケット販売中



模擬店

臨床検査科 2年
川端 晃枝

レンタル会社の方との打ち合わせや模擬店を出店する団体の方々との打ち合わせを数回重ねて、学園祭を迎えました。

当日は衛生管理には特に注意を払い、模擬店の準備や終了後の後片付けなどがスムーズに行えるように役割を決めて担当しました。

台風接近の影響もあって模擬店を途中で中止するなど、多くの面で出店してくれた団体の方々には迷惑をかけてしまいましたが、模擬店担当の学友会のメンバーで協力し合って作業を進めることができたのはよかったと思いました。



模擬店担当メンバーで打ち合わせ

チャリティー・逢空マーケット
医療保育科 2年
小西 祐希

チャリティー・逢空マーケットのパートでは、宣伝ポスターを作成し、担当を決めて協賛品を回収し集まった協賛品に値段を付けるなど、学園祭当日に向けて様々な準備を行いました。その中で大変だったことは、協賛品一つ一つに値段付けをしていたことです。たくさんの方々から協賛品を寄付していただき、時間をかけ、感謝を込めながら値段を付けていきました。販売の際には「毎年ご苦労さま」「今年も楽しみにしていました」など声を掛けていただきました。一生懸命に協賛品を集め、丁寧に値段付けしてよかったと、これまでにないほどの達成感を得ることができました。



協賛品を販売しています



医療短期大学イベント

看護科 2年

市原 夏帆

短 大イベントで何がしたいかを学生の皆さんにアンケートで尋ね、それを元にイベントの内容を決定しました。次に部やサークルにイベントへの出演を呼び掛けたところ、今年は軽音楽部とアカベラ部の出演が決まりました。イベントの内容についてイベント会社の担当者の方と打ち合わせをし、当日必要な音響システムやグッズを用意してもらいました。私たちは当日までにイベントの参加賞と景品を買ったり、イントロダクションの音楽を作ったり、イベントのルールを決めて参加者を集めたりしました。ビンゴの景品の購入やイベント参加者への呼び掛けが大変でしたが、無事に成功してよかったと思っています。



イベントの進行を確認



トークショー

看護科 2年

石原 采佳

トークショー当日は、朝から業者の方と一緒に会場とスケジュールの確認を行い、本番に臨む最終準備をしました。入り口前にお客様が並び始めるとスタッフは大忙しとなり、体育館と外を走り回りました。そのとき、友人や先輩方、先生方に「大丈夫?」「頑張ってるね!」と声を掛けてもらったお陰で、最後まで笑顔で頑張ることができました。このように大きなイベントを企画するのはとても大変ですが、業者の方々を始めたくさんの方のご協力があったからこそ、無事成功させることができたこと心から感謝しています。この達成感と感動はこれからもずっと忘れません。



「チケットを見せてください」



学科紹介・オープンキャンパス

臨床検査科 2年

平山 阿友美

高 校生にオープンキャンパスを通じて本学のことを知っていただくため、各学科と連絡を取り合い、当日の学科紹介・オープンキャンパスをスムーズに行うことを目的に準備を行いました。私たちの主な仕事は、各学科と連絡を取り合って必要な物品を給付し、当日行う内容を把握し、終了後のスケジュールなどを各学科の代表者と決めておくことでした。連絡を密に取り合うことにより、学科紹介・オープンキャンパスに来た高校生がスムーズに全体を回ることができました。各学科の特徴がよく理解でき、来てよかったと思ってもらえました。



多くの高校生の方に来ていただきました



警備

臨床検査科 2年

藤原 永子

警 備は駐車場で車の誘導をすることが主な役割で、道を聞かれたりお使いを頼まれたりすることもありました。一番大変だったのはたくさんの方がトークショーを見に来られたときで、できるだけスムーズに駐車していただけるように駐車場の空いた部分を探して誘導することでした。

10月とはいえまだ日差しが強い中、ずっと立ち続けて笑顔で挨拶したり見送ったりするのは根気が必要でした。しかし、学園祭に来られた方々が駐車場から出てお帰りになる際に車の窓を開けてまでねぎらいの言葉を掛けてくださるたびに、頑張ってたかったと心から感じました。



打ち合わせ中



東北復興支援展
臨床検査科 1年
門田 佳笑

学 園祭当日には、東北復興タオルの販売や、救助犬によるデモンストレーションの手伝い、募金を行いました。

最初は戸惑うことも多く、復興タオルを上手に売ることができませんでした。震災後にボランティアで東北に行かれていた方や東北の方も買ってくださり、「頑張ってくださいね」「私も東北のボランティアに行ったんですよ」など話しかけてくださったことで、東北復興のために頑張ろうという気持ちがより一層強くなりやりがいも感じました。

デモンストレーションでは、一人でも多くの人に見てもらいたくて呼び掛けを行い、救助犬の素晴らしさを知ってもらえたことが嬉しかったです。



総務・備品
放射線技術科 1年
松賀 美佳

学 友会備品パートの仕事は、学科紹介、トークショー、模擬店など、学内のイベントで使用される用具の貸し出し管理でした。目立たないパートではありますが、必要な備品の数を把握するため、各担当者の方々と何度も連絡を取り合い、他のパートと最も連携して活動していたのではないかと思います。学園祭準備の際には、各使用場所への搬入の順番に注意し、準備がスムーズに行われるよう気を配りました。

膨大な数の備品のリストを作り、それを管理することは大変でしたが、学園祭終了後全ての備品の返却が確認できたときの達成感は大きかったです。



前夜祭
臨床検査科 2年
小川 実華

前 夜祭は10日17時半から医療福祉大学で行われました。前夜祭当日の午後から準備に参加し、本番、片付けまでを他大学の前夜祭担当の方々と協力しながらの作業となりました。

作業内容はテントの設営から撤収、イベントの景品等の管理、カラオケ大会の得点の集計やビンゴの当選者の確認等で、様々な仕事をしました。前夜祭が始まると仕事の合間にイベント

を見ることができ、こちらも楽しむことができました。

力仕事が多く大変だと感じましたが、他大学の皆さんと協力してやり遂げることができました。前夜祭の成功に貢献でき、非常に貴重な体験ができたことを嬉しく思っています。



仮装行列
臨床検査科 2年
真栄田 奈々子

私 は仮装行列のパートリーダーをするにあたって特に「ほうれんそう」を大切にしてきました。「ほうれんそう」を大切にするという意味は、報告、連絡、相談をきちんとするということです。

去年の仮装パートは1年生が主となって活動していたこともあり、不安な点や分からないことが多かったことが今年の改善点として挙げられていました。しかし、今回は積極的に質問や確認を行うことで、時に相談にのったり一緒に考えてみたりするなどして、実行委員の方々と一つになって取り組むことができました。



学友会会長
臨床検査科 2年
稲見 遼香

今 年は私達の学年が中心となって行う最初で最後の学園祭でした。たくさんの方の協力のお陰で成功をおさめることができました。

学友会にとって一番大きなイベントである学園祭も終わり、学友会を次の代に引き継ぐことになります。この1年、大変なことはたくさんありましたが、多くの方々に支えられて会長という仕事を成し遂げることができました。学友会の活動はこれからも続いていきますので、次の代、また次の代と応援よろしくお願いします。1年間本当にありがとうございました。

臨床検査科 ワッペン授与式

～新たな気持ちで臨む2年生～



ワッペンの理念を復唱する学生たち



臨床検査科2年61名は、平成26年9月24日（水）に200号大講義室で举行されたワッペン授与式に臨みました。式典では、心を込めて学歌を斉唱した後、主任の通山 薫先生から学生一人ひとりに左肩にワッペンを授与されました。学生たちは緊張した面持ちでしたが、喜びも大変大きかったことと思います。学生を代表して木

村 正樹君がワッペン授与の誓詞を声高らかに読み上げ、学生全員で復唱して決意を表明しました。学長の山口 恒夫先生、通山 薫先生および同窓会松丘会支部長の河口 豊先生から、病院実習に向けての心構えやワッペンに書かれたイニシャルHSSCの意味、臨床検査技師としてのあるべき姿などについてのお話とともに、温かい

激励の言葉をいただきました。最後に、伊井 なつきさんが代表で河口先生から同窓会記念品を受け取り、思い出に残る厳粛なワッペン授与式を終了しました。

今後、一人ひとりの学生が新たな気持ちで病院実習に臨み、自分の将来の夢に向かって確固たる信念を持ち、目標を掲げて一生懸命勉学に励み、心豊かな医療人となるために互いに手を取り合い、明るく力強く前進してくれることを心から祈ります。（臨床検査科 永瀬 澄香）

ワッペン授与式を終えて

ワッペン授与式では、後期から始まる病院実習へ向けて、学科主任の通山 薫先生から激励の言葉をいただきました。私は、松丘会支部長である河口 豊先生から記念品を受け取る役目をさせていただきました。本学の卒業生で構成された松丘会から激励を受け、気持ちがより引き締まりました。そして、後輩である私たちの勉学を見守り、支えて応援してくれる先輩がいることを実感しました。病院実習では、知識や技術、コミュニケーションなど、将来臨床検査技師として働くうえで必要とされる能力を身に付け、これからの医療技術の発展に貢献できるような臨床検査技師になりたいと思います。

（臨床検査科 2年 伊井 なつき）

臨床検査科の理念を全員で復唱したとき、去年見た光景を鮮明に思い出し、やっと去年の先輩方に追いつけたのだと感動しました。実習着の左肩に付けたワッペンに書かれたHSSCの4文字は、Humanity：豊かな人間性、Sensibility：磨かれた感性、Skill：すぐれた医療技術、Cooperation：チームワークのとれた医療のイニシャルです。さらに、ホールピペット・心電図の波形・顕微鏡のレンズの三つの絵が描かれており、「病院実習に行くことを許可する」という大きな意味が込められています。このワッペンに込められた多くの期待に応えるためにも、今の気持ちを忘れずに充実した実習になるように頑張ります。

（臨床検査科 2年 浦崎 恵）



河口 豊先生（同窓会支部長）のご挨拶



ワッペンを授与され喜びをかみしめる学生

本学から上海へ

上海師生訪問団



第15期上海
師生訪問団
として、平成26
年8月18日から
4日間、看護科
2年次生9名と
教員2名の計
11名が上海を

訪問しました。

出発時、期待とともに本学の代表として訪問することへの不安もありましたが、上海に到着すると上海健康職業技術学院の先生方と学生の皆さんが温かく迎えてくださいました。学院内では、日本ではなかなか見られない標本の展示や実際の病院と同じ構造を再現した実習室を見学し、より実践的な演習ができると感じました。観光では、上海博物館や豫

園、南京路などを巡り、中国の長い歴史と発展を学ぶことができました。また、学院の皆さんとの観光や食事の機会に、中国語を教えていただいたり、上海や日本で流行っている歌やダンスを互いに披露し合ったり、日本の生活についての話で大変盛り上がるなど、思い出に残るひとときとなりました。

今回の訪問を通じて視野が大きく広がり、さらに看護の勉強を頑張りたいと思いました。短期間でしたが滞在中は大変有意義な時間を過ごすことができ、お世話になった皆様に心から感謝いたします。

(看護科 2年 大熊 紗季)



平成26年度「11月11日は介護の日」

“介護フェア”に参加

介護の日を記念する“介護フェア”が、11月9日（日）に（社）岡山県介護福祉士会と日本介護福祉士養成施設協会岡山県支部他の主催で、岡山県総合福祉会館において行われました。本学の参加は今年度で6回目、学生と教員総勢27名で参加しました。

前半には、介護福祉士を養成する専門学校や短大、大学など県下9校の学生によるアトラクションがありました。この日のために練習を重ねてきた創作劇、認知症を有する方への関わりについての発表、ソーラン節、笛や太鼓によるお囃子演奏など、養成校ごとに披露しました。本学は3部構成で、最終実習を終えた報告、奈良佐保短期大学附属倉敷幼稚園さく組の介護の日の作品紹介、そして、NHK東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」の手話歌披露を行いました。

後半には、毒蝮 三太夫氏により「まむしの介護よもやま話」というタイトルで記念講演が行われました。毒蝮氏は、「介護には3つのKが必要である。それは、経験のKとコツのK、心のKである」と話され、高齢者は素敵な笑顔を持っているのだから、優しい言葉と笑顔で接することが大切であると伝えてくれました。

今年も、各方面の方々の介護に対する想いや希望を集大成した記念イベントになりました。このようなイベントを通じて、一人でも多くの人々が「介護」を身近なものとして感じ、住み慣れた地域で安心して暮らしていくことを考えるきっかけになることを願います。

(医療介護福祉科 辻 真美)



平成26年度

第3回公開講座開催！



講座名

皆で楽しむワークショップ

一枚の紙から広がる子どもの世界

10月11日（土）に、医療保育科主管の平成26年度第3回公開講座「皆で楽しむワークショップ—一枚の紙から広がる子どもの世界—」を開催しました。

参加者は70名でした。当日は学園祭とオープンキャンパスも開催されており、親子だけでなく、高校生や高齢の方にも参加していただきました。本学科の1年生が手遊びを行い、参加者の緊張をほぐし、わくわくする楽しい気持ちが高まる中でワークショップを開始しました。

今回は、一枚の紙から様々なものを作ることができる「創造性」、自分だけのおもちゃができる「独創性」、一人ではできないことも助け合うとできる「協調性」を体験できる内容にしました。特に大切にしたい点は、制作過程で親子の対話や参加者同士のコミュニケーションを増やすことでした。そこで、重要なこととして、「①子どもと一緒に作る時は協力して作る。②作る時は子どもを決して叱らない。③子どもを褒める。」という3点の約束をしてから制作活動を始めました。

まず、折り紙で切り紙工作を行い、この時間に呼んでほしい名前を書いた名札を作りました。次に、折り紙や上質紙を使用して飛ぶおもちゃを4種類作り、それぞれに作者

の名前を書き、実際に飛ばして遊びました。最初は遠慮している様子でしたが、次第に、はさみやセロハンテープを使う際に、「貸して」「どうぞ」などのやりとりが見られるようになりました。そして、飛ばして遊ぶときに誰かのおもちゃが近くに落ちてくると、名前を呼びながら持ち主を捜して渡し合う姿や、うまく飛ばないおもちゃを親子で直す姿が見られました。会場全体が楽しい声で満たされていました。その後、紙の音を楽しむおもちゃを2種類作りました。学生が歌う子ぶたの歌の鳴き声に合わせ、笛を鳴らして楽しみました。

最後にマジックカードを作りました。尾崎 公彦教授が見本を見せると、会場のあちらこちらから「すごい」と声が上がって拍手が起こりました。作りは単純ですが、正しく動くように作ることが難しく、試行錯誤し、教え合いながら土台を完成させていました。思い思いに装飾して世界に一つだけのカードがたくさん生まれました。もっと遊びたい、という声を聞きながら閉会しました。

多くの教職員、学生の皆様にご協力いただき、お陰様で楽しい公開講座を開催できたことに感謝いたします。ありがとうございました。（医療保育科 伊藤 智里）

ハラスメント防止講演会の開催 〈5／22・7／24〉 「発達障害とは」

Harassment



講師の重松 孝治先生

発達障害は先天性の脳機能の問題によって生じるとされる障害です。現在、ADHD（注意欠陥多動性障害）、LD（学習障害）、ASD（自閉症スペクトラム障害）の三つが主要なものとされています。

ADHDは、①不注意さ、②多動・衝動性を特徴とします。大学生活においては、自己管理の問題などが目立つようになります。例えば課題の提出忘れ、予定を忘れる、金銭管理がうまくできない、といった問題が見受けられます。学生には注意だけでなく、自己管理の方法（スケジュール帳や予定管理アプリの使用など）を指導することが必要です。

LDは、「読み」「書き」「計算」など学習行動自体に困難さが生じます。講義でノートテイクができなかったり、教科書やテスト問題を読むのに時間がかかることなどが見られます。講義の録音や板書の撮影など、代償となる学習手段の検討が必要になります。

ASDは、①対人関係やコミュニケーションの障害、②常同的な行動様式や興味の偏り、を特徴とします。状況や相手の気持ちを推測できないため、意図が読めずにレポートが書けない、実習ですべきことが分からず立ち尽くす、などの様子が見られます。具体的にすべきことを一つずつ伝えていくことが必要です。（医療保育科 重松 孝治）



学生生活委員会主催講演会の開催

「学生のSOSを受け止めるために 教職員にできること」

昨今の学生相談には、「友達とうまく関われない」「先生と話せない」など、人間関係がうまくとれないという訴えが少なくありません。先生方からは、「もう一歩なのになぜ実習に行けないの?」「どうしてリストカットするの?」「困っていない?と聞いても何も言わない」など、学生の気持ちがわからないとの声が聞こえてきます。このような学生対応の悩みを解決する手立てとして、9月22日に、臨床心理士の石垣 明美先生（シーズ・オブ・モモ開業、川崎医科大学・川崎医療福祉大学非常勤カウンセラー）にご講演いただきました。

先生のお話によると、今の学生は現状を見ないようにする傾向があり、これまで自分について考える・悩むという体験が少ないために、どのように自分の現状を表現してよいかわからないそうです。そのため、困っていても自分からSOSをうまく発信できないようです。教職員の対応としては、普段から温かな励ましを心がけ失敗に学ぶ姿勢や現状に直面化する勇気を教えることが必要だそうです。基本的な対応としては傾聴であり、ある程度理解できるまでインタビューして、学生が思っていることを認める対応をすることが大切です。説得でなく、一緒に考え、その学生の成長につないでいくことが大事であると教えていただきました。（学生生活委員会 新見 明子）



講師の石垣 明美先生



くらしき & おかやま

by 写真部

vol. 9 まきどう 満奇洞

今回は、少し遠出をして新見市の鍾乳洞「満奇洞」に行ってきました。

満奇洞は、岡山県の指定天然記念物に指定されています。歌人・与謝野晶子が「奇に満ちた洞」と詠んだことから、この名前がついたそうです。

全長 450m で、1 周の探勝時間は 30 分です。



鍾乳洞は何億年という長い年月を経て形成されます。私たちはその時間のほんの一部しか過ごせないのだと感じ、改めて自然の偉大さを、身をもって知りました。



ライトアップされた鍾乳洞はとても神秘的で美しく、まさに自然が生み出した芸術品です。

中は 30 分ほどで回ることができますが、奥へ進むほどに様々な造形が現れ、私たちの目を楽しませてくれます。自然の壮大さと悠久の年月を感じに、皆さんも満奇洞へ足を運んでみてはいかがでしょうか。



天井が低いところが多く、中腰での移動が多いです。取材メンバーの中には5回も天井に頭をぶつめたおっちょこちょいもいました。行かれたときには、ぜひ頭上に注意してください。



◎取材、撮影
MT2 内田、神原、松原、
NS2 川本
NS1 加賀田、佐々木、
島田

◇日本語に関する取り組み◇ 第9回「サラダ記念日・短歌くらべ」 優秀賞受賞報告

医療介護福祉科の「日本語」と「文章表現」の授業では、毎年、介護への思いを短歌に託して表現できるよう指導しています。学生は、施設や在宅での実習経験を通して介護という仕事のやりがいを実感し、利用者さんとの交流を通して得られたナイブな感動を短歌に詠んでいます。今年度は2年次生全員で、家族への感謝の思いや「食」の喜びをテーマに、サラダや野菜の短歌を詠み、その成果を「第9回サラダ記念日・短歌くらべ」（読売新聞社広告局主催、キューピー株式会社協賛）に応募しました。歌人の俵 万智さんによる選考が行われ、応募作品6,119首の第2席として、旭 奈緒美さんの次の一首が選ばれました。



母の味一人暮らしで思い出す
好きではなかったポテトサラダを

地球温暖化対策
ワーキング
グループだより

川崎エコ
プロジェクト

ゆとりを持って
小さなエコ
から!!

前回の「川崎エコプロジェクト」でお伝えした「上りは少人数で、下りは大人数でエレベータ利用」を実行するためには、「上りは階段を」ということになります。6階まで階段を上るエネルギーはどれだけのなのでしょう。

体重60kgの人が高さ17cm・113段の階段を上るエネルギーは3Wh (2.6kcal) です。これを15回繰り返すとエレベータ1回分に相当します。また、人体のエネルギー効率を25%とすると、10kcalのエネルギーを消費します。2分ほどの時間がかかりますが、健康のためにも試みてはどうですか。

ところが……。人間のエネルギー源は食料です。食料は、それに含まれるエネルギー量から想像するよりも多くのエネルギーを使ってスーパーマーケットに並びます。例えば、コップ一杯の牛乳 (含120kcal) には石油0.1L (840kcal) 相当のエネルギーが必要です。

必要なエネルギーの使用は最低限にとどめ、見もしないテレビのつけっぱなし、電気の消し忘れなど身の回りの小さな無駄を無くすようにしましょう。ゆとりを持って小さなエコから始めましょう。(一般教養 阿部 利則)

岡山県福祉・介護人材確保緊急支援事業について

医療介護福祉科では、平成21年度から岡山県福祉・介護人材確保緊急支援事業として、福祉・介護の仕事に関する広報活動とセミナー研修 (公開講座) を行ってきました。平成26年度は、新たに「みんなのかいご」というテーマで小学校5年生を対象に福祉・介護セミナーを実施する予定です。介護の仕事の大切さや魅力を子どもたちにも知ってもらえたらと思います。

また、岡山県キャリア形成訪問指導事業の一環として、医療介護福祉科教員が、福祉施設に出向き、巡回訪問研修を実施しています。これは、福祉・介護職員を対象に、高齢者の暮らす空間で高齢者になりきって過ごす経験をするもので、自らの介護の思考過程を振り返り、スキルの向上ができるような研修内容となっています。この活動を通じて、福祉・介護職員のキャリアアップを応援するとともに、本学の介護福祉士養成教育にも生かしていきたいと思っています。

(医療介護福祉科
山田 順子)



上海からニーハオ!!

10月2日に上海から来日しました。半年間の研修期間の後、来年4月に看護科へ入学予定です。皆さん、よろしくお願いします。



◆ 蔣 韻璐
(Jiang Yun Lu)
上海市衛生学校 卒業



◆ 万 雪晴
(Wan Xueqing)
上海市衛生学校 卒業

主要行事（1月～3月）

1月

5日 仕事始め
20日 川崎学園防災の日
24日 医療保育科3年オペレッタ発表会
24日 医療介護福祉科公開授業
31日 看護科1年基礎看護実習Ⅰ開始（～2/7）

2月

2日 一般入試前期（学生は校内立入禁止）
3日 医療保育科2年保育実習成果発表会
7日 一般入試前期合格発表
24日 医療介護福祉科2年卒業研究発表会
25日 在学生健康診断（～26）

3月

14日 医療介護福祉科公開授業
16日 卒業証書・学位記授与式
17日 一般入試後期（学生は校内立入禁止）
19日 一般入試後期合格発表

放射線取扱主任者試験 合格者

【第1種】

（放射線技術科3年2名、2年2名）

大西 英治 永田 智子
井浦 真希 川崎 侑紀

【第2種】

（放射線技術科2年9名、1年1名）

赤木 拓哉 井浦 真希 尾原 佳樹
川崎 侑紀 小松 桃子 船越 沙樹
宮嶋 佑旗 森本 亮多 山根 彩香
橋本 二春

【放射線取扱主任者とは】

放射線業務従事者や一般公衆等に対して放射線障害が起らないように、放射性同位元素等の取り扱いについて監督を行います。一定数量以上の放射性同位元素等を使用・保管する施設では、この免状を取得した「放射線取扱主任者」を配置する必要があります。

平成27年度AO入試（前期・後期）結果

AO入試前期

試験日：8月24日(日) 合格発表：8月29日(金)

	看護科	医療介護福祉科	医療保育科	計
募集人員	20	15	25	60
出願者数	54	9	32	95
出願倍率	2.7	0.6	1.3	1.6
合格者数	26	9	28	63

AO入試後期

試験日：10月26日(日) 合格発表：10月31日(金)

	看護科	臨床検査科	放射線技術科	医療介護福祉科	医療保育科	計
募集人員	10	5	5	15	5	40
志願者数	25	35	34	6	9	109
志願倍率	2.5	7	6.8	0.4	1.8	2.7
合格者数	14	8	5	6	8	41

平成27年度一般入試（前期・後期）日程

試験区分	願書受付期間	試験日
一般前期	平成27年1月8日(木)～1月26日(月)【消印有効】	平成27年2月 2日(月)
一般後期	平成27年2月23日(月)～3月9日(月)【消印有効】	平成27年3月17日(火)

国 家 試 験 日 程

区 分	試 験 日	合 格 発 表
第104回 看護師国家試験	平成27年2月22日(日)	平成27年3月25日(水)
第61回 臨床検査技師国家試験	平成27年2月25日(水)	平成27年3月30日(月)
第67回 診療放射線技師国家試験	平成27年2月26日(木)	平成27年3月30日(月)

川崎医療短期大学広報誌 「若きいのち」(87号)

2014年12月発行

編集発行：広報誌編集委員会

天野 貴司（放射線技術科・委員長）
河邊 聡子（医療介護福祉科・副委員長）
名木田 恵理子（一般教養）
見尾 久美恵（一般教養）
重田 崇之（一般教養）
影本 妙子（看護科）
黒住 菜美（臨床検査科）
重松 孝治（医療保育科）
桑田 俊明（庶務課）
松井 美奈（庶務課・書記）

写真協力：二葉写真館

印刷：友野印刷株式会社

皆さんからのご意見・ご要望をお待ちしております。

〒701-0194 倉敷市松島316

川崎医療短期大学 広報誌編集委員会

電話：086-464-1032（庶務課）

Eメール：kouhou@jc.kawasaki-m.ac.jp

ホームページ <http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/>

編 集 後 記

今年も師走を迎えました。後期から学外実習や臨床実習が始まっています。本号で紹介している臨床検査科のワッペン授与式は、凛々しく成長した学生たちが、気持ちを新たに歩み始めようとする第一歩となるものです。

今回の特集では学園祭の裏方として働く学友会の活躍に注目しました。これまで教員になって3度学園祭に関わってきましたが、学友会が裏方として頑張っている様子を見るのは初めてでした。授業や実習で忙しい中、勉強と学園祭準備の両立はとても大変だったと思います。学友会のように裏で支えてくれる存在があってこそ、たくさんの方々に楽しんでもらえる学園祭になるのだと思います。特集の中では学園祭の苦労話とともに、何カ月も前から準備をしている様子や当日の奮闘ぶりを写真で掲載していますので、ぜひご覧ください。

最後になりましたが、ご多忙中にもかかわらず、記事を執筆してくださった皆様に深くお礼申し上げます。

（黒住 菜美）